研究の実施に関して、ホームページに公表する内容

「新規歯科矯正用アンカースクリューの臨床応用に関する研究」に関するお知らせ

１．【研究課題名および研究代表者】
研究課題名：「新規歯科矯正用アンカースクリューの臨床応用に関する研究」
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科・歯科発生発達生育学講座・矯正学分野
教授　　宮脇正一

２．【対象】
矯正歯科診療のため、2000 年 4 月～2014 年 3 月に歯科矯正用アンカースクリューを用いて矯正治療を行った方が対象となります。

３．【研究機関名】
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科・歯科発生発達生育学講座・矯正学分野

４．【目的】
矯正治療における新規歯科矯正用アンカースクリューと骨固定補助装置の有効性を明らかにすることです。

５．【方法】
矯正歯科診療の検査で採得された検査資料を分析します。
１）口腔内および顔面形態の診査・検査の分析
口腔内診査による口腔内の状態（咬合、現在歯数、むし歯、くさび状欠損の有無、歯の咬耗の程度）、顔面・口腔内写真およびパノラマ X 線写真、頭部 X 線規格写真、デンタル X 線写真（10 枚法）、CT、MRI および口腔模型を分析します。
2）顎口腔機能（あごの動き）の検査の解析
顎口腔機能検査、咬合力（接触面積）検査および安静時・咀嚼様運動時のつばの出る量の測定結果を解析します。

６．【意義】
本研究から不動固定源として歯科矯正用アンカースクリューを用いた新しい治療法を確立できれば、着実な治療結果が得られるだけでなく、治療期間の大幅な短縮が可能となり、患者の時間的および経済的負担の軽減を図ることができ、歯科医学に貢献すると考えられます。

７．【個人情報】
調査結果の発表や出版に際しては個人が特定されるような情報は掲載いたしません。また、調査結果は個人情報を含まない形で保存いたします。検査資料の使用拒否を申し出る場合は下記までご連絡いただきますようお願いいたします。申し出があった場合は、速やかに対象から除外いたします。使用拒否を申し出たからといって、あなたの不利益になるようなことはありません。

８．【問合せ先】
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科・歯科発生発達生育学講座・矯正学分野
トモナリ　ヒロシ
助教　　友成　博
〒890-8544
鹿児島市桜ヶ丘 8 丁目 35 番 1 号
TEL：099－275-6252
FAX：099－275-6258

研究の実施に関して、ホームページに公表する内容

「カスタムメイドリンガルブラケット（INCOGNITO®）を用いた歯科矯正治療システムの構築」の研究に関するお知らせ

１．【研究課題名および研究代表者】
研究課題名：「カスタムメイドリンガルブラケット（INCOGNITO®）を用いた歯科矯正治療システムの構築」
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科・歯科発生発達生育学講座・矯正学分野
教授　　宮脇正一

２．【対象】
矯正歯科診療のため、2000 年 4 月～2014 年 3 月に唇側矯正装置およびリンガルブラケット装置を用いて歯科矯正を行った方が対象となります。

３．【研究機関名】
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科・歯科発生発達生育学講座・矯正学分野

４．【目的】
カスタムメイドリンガルブラケット（INCOGNITO®）を用いた歯科矯正治療システムの有効性を明らかにすることです。

５．【方法】
矯正歯科診療の検査で採得された検査資料を分析します。
１）口腔内および顔面形態の診査・検査の分析
口腔内診査による口腔内の状態（咬合、現在歯数、むし歯、くさび状欠損の有無、歯の咬耗の程度）、顔面・口腔内写真およびパノラマ X 線写真、頭部 X 線規格写真、デンタル X 線写真（10 枚法）、CT、MRI および口腔模型を分析します。
2）顎口腔機能の検査の解析
顎口腔機能検査、咬合力（接触面積）検査および安静時・咀嚼様運動時のつばの出る量の測定結果を解析します。

６．【意義】
本研究から歯科矯正治療において、治療期間の短縮、治療成績の向上、審美的･機能的に優れ、快適な歯科矯正システムの構築が期待できると考えられます。

７．【個人情報】
調査結果の発表や出版に際しては個人が特定されるような情報は掲載いたしません。また、調査結果は個人情報を含まない形で保存いたします。検査資料の使用拒否を申し出る場合は下記までご連絡いただきますようお願いいたします。申し出があった場合は、速やかに対象から除外いたします。使用拒否を申し出たからといって、あなたの不利益になるようなことはありません。

８．【問合せ先】
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科・歯科発生発達生育学講座・矯正学分野
トモナリ ヒロシ
助教　　友成　博

〒890-8544
鹿児島市桜ヶ丘 8 丁目 35 番 1 号
TEL：099－275-6252
FAX：099－275-6258

2000 年から 2014 年までに鹿児島大学病院矯正歯科を受診された患者さんへ

（研究の実施に関して、ホームページに公表する内容）

「矯正歯科治療を受ける患者の心理的背景とボディーイメージ､行動変容に関する研究」の研究に関するお知らせ

１．【研究課題名および研究代表者】

研究課題名：「矯正歯科治療を受ける患者の心理的背景とボディーイメージ、行動変容に関する研究」

鹿児島大学病院 発達系歯科センター 矯正歯科

教授　　宮脇正一

２．【対象】

矯正歯科診療のため、鹿児島大学病院矯正歯科を受診した患者のうち、研究の趣旨を理解し、同意の得られた患者を 1 年あたり 100 名対象（計 500 名）とします。ただし、妊娠中または妊娠の可能性のある者は除外します。その他本研究への参加が不適当と判断される場合は除外します。被験者の年齢は問いません。対照群として、2000 年から 2014 年までに鹿児島大学病院矯正歯科を受診した患者約 500 名の検査結果(形態検査、顎口腔機能検査)・診療記録を対象とします。

３．【研究機関名】

鹿児島大学病院 発達系歯科センター 矯正歯科

４．【目的】

本研究は、矯正歯科治療を受ける患者の心理的背景と行動変容の関係を明らかにし､それらに基づいて患者の主訴の改善に最も効果的な治療計画を立案するシステムを構築し、患者の QOL の向上に貢献することを目的とします。不正咬合には下顎前突（下顎が前方に出ている状態）や上顎前突（上顎が出ている）など様々な類型があり、噛めない、見た目が気になる等の理由で矯正歯科を受診する患者は年々増加傾向にあります。しかし一方で、不正咬合があるにも関わらず治療対象としての認識がなく、矯正歯科を受診しない場合もあります。そこで本研究は、このような医療行動の違いの背景に『個人のボディーイメージ（自分の体をどのように認識しているかという概念）の差が医療行動の変容に影響している』との仮説を立て、本研究で検証を行うとともに、矯正治療における心理検査の有効性を検証します

５．【方法】

前項の目的を達成するため、従来の矯正治療に必要な一般的検査（形態検査、顎口腔機能検査）に加えて新たに心理検査を実施します。

患者群：

心理検査、形態検査、顎口腔機能検査により得られた検査結果と診療録を基に得られたデータを集計して解析します。

対照群：

2000 年から 2014 年までに鹿児島大学病院矯正歯科外来にて従来型検査（形態検査、顎口腔機能検査）を用いて矯正治療を行った患者さんの、既存の検査結果・診療記録を集計して解析します。新たに資料等の採取は行いません。

６．【意義】

矯正歯科治療を受ける患者さんの心理的背景は､治療計画の立案において重要であるため､その評価システムの確立が急務です。本研究は矯正歯科を受診する患者さんのボディーイメージおよび行動変容と実際の顎顔面形態･機能との関連を明らかにすることにより、患者さんの主訴の改善に最も効果的な治療計画の立案を行い、

これらに基づいた歯科矯正治療を提供するシステムを構築することにより、患者さんの QOL の向上に貢献するという意義があります。

７．【個人情報】

調査結果の発表や出版に際しては個人が特定されるような情報は掲載いたしません。また、調査結果は個人情報を含まない形で保存いたします。検査資料の使用拒否を申し出る場合は下記までご連絡いただきますようお願いいたします。申し出があった場合は速やかに対象から除外いたします。使用拒否を申し出たからといって、あなたの不利益になるようなことはありません。

８．【問合せ先】

鹿児島大学病院 発達系歯科センター 矯正歯科

助教　植田（ウエダ）　紘貴（ヒロタカ）

〒890-8544
鹿児島市桜ヶ丘 8 丁目 35 番 1 号
TEL：099－275-6620
FAX：099－275-6258

鹿児島大学病院　矯正歯科で

研究にご協力頂いた患者さんへ

（　研究の実施に関して、ホームページに公表する内容　）

鹿児島大学病院矯正歯科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、以前研究にご協力いただいた際に得られた試料・情報等をまとめる研究です。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究について詳しくお知りになりたい時や、研究への参加を希望されない場合は下記の「お問い合わせ先」へご連絡ください。

【研究課題名】

食道内への酸刺激により誘発される Rythmic Masticatory Muscle Activity（律動的な筋の活動：RMMA）の発生頻度とそのメカニズムの検討

【研 究 機 関】

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科歯科矯正学分野

【研究責任者】

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科歯科矯正学分野

役職　助教　　氏名　前田綾

【研究の目的】

食道内への酸刺激によりブラキシズム（歯ぎしり）が発現するという仮説をたて、その検証のため覚醒時あるいは睡眠時に食道内へ酸性溶液を注入して、RMMA やブラキシズムの有無、頻度を調べ、睡眠時ブラキシズムの発現メカニズムを明らかにすることを目的としています。

【研究の方法】

以前の研究（鹿児島大学病院臨床研究倫理委員会に 2011 年 3 月 15 日付け（変更 22－120）、2014 年１月６日付け（25－141）で承認）にご協力いただ

いた際に得られた試料・情報を用います。

【対象となる患者さん】
2011年3月16日から5年間、研究の趣旨を説明して理解と協力の得られた全身疾患のない成人男性27名。

【試料や診療録（カルテ）から利用する情報】
1)基礎調査
(1) 質問紙調査
・全身の健康状態、既往歴、服用中の薬剤
・歯ぎしりの臨床的自覚症状
・消化器症状と睡眠障害に関する問診票（QUEST, F-Scale, ESS）
・健康調査票（WHO QOL26）と心理検査（STAI、BDI）
(2) 口腔疾患の罹患率の調査
・口の診査：残存歯、う蝕、楔状欠損、歯の咬耗、歯の動揺、出血、歯茎の腫れ、口臭
・顎の関節症の診査：顎関節雑音、顎の動きの障害、顎の筋肉の痛み
・顔と口の写真：咬耗の診査分析のため
・咬合模型のための歯型とり：咬耗の診査分析のため
・唾液量検査：だ液の量とpH
2)介入実験（ポリグラフ検査中に介入：覚醒時(読書時あるいは計算時)あるいは睡眠時に食道内へ酸性溶液あるいは生理食塩水を注入）で得られた情報。
(1) 計測項目：脳波（EEG）C3-A2,O2-A1、眼電図（EOG）、心電図（ECG）、筋電図（EMG）咬筋、側頭筋、顎二腹筋、呼吸、体位、脈波、血中酸素飽和度（SpO2）、食道内pH、ビデオ撮影

【個人情報の取り扱いについて】
研究で使用する診療情報は、患者さんの氏名や住所など、患者さんを直接特定できる個人情報を削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌などで発表することがありますが、その際も患者さんを特定できる情報は使用しません。

【研究の資金源等、関係機関との関係について】
この研究は、公的研究費（厚生労働科学研究費）で実施しますので、利害の衝突は発生しません。

【参加を希望しない患者さんへ】

この研究に参加を希望されない場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。あなたに関するデータを削除します。ただし、学術発表などすでに公開された後のデータなど、患者さんまたはご家族からの撤回の内容に従った措置を講じることが困難となる場合があります。

【問い合わせ先】
〒890-8520
鹿児島市桜ヶ丘 8 丁目 35 番地 1 号
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科歯科矯正学分野
役職　助教　　氏名　前田綾
電話　099-275-6252　　FAX　099-275-6258